

# 仲間づくりが大切

## エイズ文化フォーラム

陸前高田で

「ともに生きる」誰もが住みやすいまちに「く」をテーマとしたAIDS（エイズ）文化フォーラムin陸前高田は23日、陸前高田市米崎町のイオンスーパーセンター陸前高田店で開かれた。交際の若いカップル間で暴力が起きるデートDVをテーマとしたラジオ公開収録や、市民らによるステージ発表が行われ、不安や悩みを分かち合える仲間づくりの大切さを発信した。



上村さん（左から2人目）らと交えた公開収録①、将来のまちづくりへの期待を飾り付ける企画も＝米崎町



会を通じて、地域のつながりを深めようという企画。陸前高田青年会議所、陸前高田市、県大船渡保健所、Aid T A K A T A、陸前高田災害FMによる実行座「公開収録には、久

保田崇副市長も参加した。同番組は通常、毎週水曜日午後2時から放送。岩手医大いわて東北メディカル・メガバンク機構の佐々木亮平さんとヘルスプロモーション推進センターの岩室紳也さん、同FMの阿部裕美さんらで健康情報などを伝えている。

同町出身歌手・星ひかりさんの歌声披露に続き、再び公開収録。「子どもたちとの関わりから見えるHIV・AIDS、デートDV」と題し、ウィメンズクリニック・かみむら（岡山県）院長の上村茂仁さんが、佐々木さんや岩室さん、阿部さんとともにエイズ感

染の危険がある性暴力などの至る心理状態や予防策を語り合った。上村さんは「デートDVは加害者、被害者内では気づかず、むしろ幸せなカップルと思いきんでいる場合もある。そうであれば、周囲が気づくしかない。恋愛の前に、心を打ち明けられる仲間を見つけたい」と強調。耳を傾けていた若者たちを前に、普段から気軽に語り合える友人づ

くりの大切さを訴えた。会場では市が進める「フーマライゼーション」という言葉のいらな「いまちづくり」への期待を来訪者が記し、赤いリボンとともに飾りつける企画も。エイズに関連した活動を紹介する展示のほか、市の手話教室受講生による歌に合わせた手話披露も行われた。

東海新報

2014.11.24 (月)